



伊丹市立幼児教育センター通信

ときめき ひらめき

Vol 25 (令和7年7月)
発行: 伊丹市立幼児教育センター
住所: 伊丹市千僧 1-1
電話: 072-780-2488
アドレス: youkyosenta@city.itami.lg.jp

★地域でつながり、幼児期の学びを小学校へつなぐ

伊丹市架け橋期の教育連絡協議会 地域部会が始まりました

今年度から、地域部会拠点園に近隣の小学校、公私立幼児教育施設が集い、架け橋期のカリキュラムをもとにした保育・授業の実践交流を図るとともに児童等の情報共有を行うことを目的として、伊丹市架け橋期の教育連絡協議会 地域部会が実施されることとなりました。

その初回として、Fブロックの地域部会が6月5日にささはらこども園にて開催され、3小学校(笹原・昆陽里・摂陽)と、公私保育所園・幼稚園・こども園6園(おうち・トレジャーささはら・ひかり・ささはら・野間・おぎの幼)が集まりました。

会では、①新1年生の様子②1年生の実態をふまえての授業の工夫や、その子たちが入学前に園の保育で経験してきたことの2点について協議を行い、アドバイザーも「架け橋期のコーディネーター」として各グループに加わりました。

小学校区ごとの話し合いの内容から、1年生において様々な授業の工夫がなされていることがわかりました。

例えば ◎4月は45分授業を15分のユニットにする

◎算数「足し算・引き算」でバスごっこをする→

導入に視覚化、動作化を取り入れ意欲を高める

◎毎日絵本の読み聞かせを行っている

◎今後、幼児期の経験を活かしてお店ごっこや買い物ごっこができればいい 等…



昆陽里小ブロックグループ 協議の様子

〈会のまとめとして、グループ協議の内容から幼小双方で以下のことを共有しました〉

◎小学校では児童同士助け合うなど「横のつながり」を大切にしている→架け橋期には「協働性」を意識し、そのような活動を経験できるようにすることが必要である。

◎小学校で好きな絵を描くという課題に「なにかいていいかわからない」と泣く子がいる→幼児期には、一人一人のやりたい遊びが存分にできる環境を保障しつつ、無理にではなく、かつ、一人ひとりが必要な経験を確実に経験できるよう保育を計画・点検することも大切。

架け橋期のカリキュラム 5歳児版も、ぜひ参考にしてください😊

◎算数でバスごっこの遊びを取り入れての導入は、児童の「やってみたい」という学びへの意欲を引き出すのに有効。乗り物ごっこはたいていの幼児教育施設で子どもたちは経験している。どんな経験をしているかを今日のような機会に知り合い、互いに生かして欲しい。

☆他ブロック 地域部会日程☆

参加ご予約ください

A①ブロック 伊丹幼稚園…8/26

A②ブロック わかばこども園…7/23

B ブロック さくらだいこども園…7/24

C ブロック 神津こども園…7/22

D ブロック みずほ幼稚園…7/17

E ブロック おぎの幼稚園…7/23

※時間等、詳しい案内は各地域部会拠点園からあります。

※地域部会は、3 学期にもう一回開催予定です(年間 2 回開催)

★中学生・高校生あつまれ!

保育の仕事の魅力発信イベント★

伊丹市在住・在学の中・高校生を対象に、「保育者」の仕事の魅力について発信し、次世代の保育者育成としてキャリア支援に資することを目的に実施します。

8/5(火)10:00~12:00 わかばこども園にて 保育体験等予定
お知り合いに保育の仕事に関心のある伊丹市在住・在学の中学・高校の学生さんがいれば、ぜひお知らせください。

問い合わせ・申し込み(7/15~25)は、幼児教育センターまで



★おススメ保育専門書

☆紹介の専門書は貸本として幼児教育センターに置いておりますので是非ご利用ください。

「子ども主体の保育をつくる56の言葉」

著作:大豆生田啓友 発行:Gakken

今、多くの園が保育の質の向上を目指し「子ども主体の保育」へ動き出しています。一方、現場からは「子どもの主体性をどこまで認めればいいの?」などの声が聞かれます。

環境構成、あそび・生活、かかわり…保育の中の思い込みを、子ども主体の保育の視点で捉えなおしてみると、どうなるのか? 「べき」「ねば」な保育からワクワクする保育へ 保育の質向上へのヒントがたっぷり詰まった一冊です。



「子どもがひとり

笑ったら…」

写真・ことば 小西 貴士
発行:フレーベル館

ハケ岳南麓のようちえんで 育つ子と大人たちの心のふれあいを切り取った写真とことば集。子どもを見つめる視線の優しさがファインダー越しにも伝わってきます。



★アドバイザー通信「笑顔は、素敵な魔法!」

日々、市内の様々な施設を訪問させて頂くことを通して、施設の皆様が快く受け入れて下さり「共に伊丹市の仲間」と感じて接して下さっていることを感じます。訪問した際に、異年齢の取り組みのお話の中で「今年も味噌作り取り組んだんですよ!」と笑顔でお話しして下さる施設や、悩みながらも、繰り返しご質問をくださる施設に訪問した際には「環境を思い切って変えてみたんです! 子ども達に、生き生きとした姿が増えて嬉しいですよ!」と伝えてくださることもありました。こうして先生方から子ども達へと愛情が伝わり、子どもが笑顔で過ごせることで先生方も笑顔になる。そのお話を聞くと私たちも笑顔になって心がぽっと温まる。笑顔は魔法のように周りを幸せにしてくれますね。

(幼児教育センター 坂本)